史料紹介

賀来飛霞より山路屋への書翰(三)

西岡　昭

（十六）

恭祝新禧

明治十四年一月廿四日

賀来飛霞

賀来惟弘様

御揃益御多祥可被成御超歳目出度奉存候、随而熊次郎様私共依旧加馬齢申候、乍憚御休意可被下候、先者年頭御祝詞申上度如此御座候、尚期永日之時候　謹言

熊次郎様御事私御同居に而日夜種々御話をも相伺候処、決し而女色なと御耽りと申様之事にてハ無御座候間、不悪御汲取可被下候、何分諸色高直ノ際に而生徒も一ヶ月拾円位者入り申候、生徒と申候ても相應之交リも有之、稀に牛店に立寄候位ノ事ハ互に御座候有に付、国許6参り居候元田と田桐田等之処聞合候に、皆拾円以上之入費に御座候、私ハ交リも無之毎日宿に而辛抱而己仕候に付テハ、残金出来可申道理ト山々考候へ共、弐拾五円ノ給料少シモ残リ不申候、宿賃弐円二十五銭、下婢ノ給料壱円廿五銭、米代六円程ツヽ、其他炭薪味噌醤油野菜等と申様之物に而、魚を相用不申候而モ行足兼候に御座候、按外定リ之外ノ物入多ものに御座候、熊次郎様も最早英書を御読ミ被成処ハ御稽古ハ存分御出来に御座候、御自身之御好之学問を被成候と申ス場合に御座候間、先御当人之思召通リナサレ候方宜シカルベキ欤と愚考仕候、諸色高直ノ際御学資も多分に相成可申候へとも、先一両年御当人之御目的通リ被成候ハバ、一層之御進歩に相成可申候、生徒と申候ても数等有之、能ク読候連中ハ自ラ衣服等も少し者違ひ候様ノ風も相覚へ申候、右申上候処者実にツマラヌ愚存に御座候へとも、乍去当地之生徒ノ風を大略申上候間、因之篤と御熟考可被下候、

一　生徒ノ費ノ多く入リ候ハ、書物ノ代に御座候、是ハ是非とも無ケレバナラヌモノに而、洋書ハ至而高價、既一昨年とハ倍に相成候、毎月ノ月謝モ一円位ハ入り申候、免角モノ入り多シ嗚呼、是も古金に而買候ハハ、声ノ高ハ低クアルベシ

一　去冬ゟ雨も雪も降り不申候、私ハ大仕合に御座候、然処去ル十九日雪降積ル事六七寸、今日迄も消へ不申、今朝ゟハ二度地震、其後霰降リ出し申候、近日ハ雪残居候間、火事ハチョット休ミ申候

一　博覧会も至而盛大之評判に御座候、御見物に御出可有之と御待申上候、若シ貴君御東上無御座候ハバ、御母公様御上リ東京御見物可然と奉存候、幸南様も御宅出来に付、御宿所も御安気と奉存候、草々頓首

賀来惟弘様　賀来飛霞

几下

（十七）

益御清適可被成御座恭悦至極之御儀奉存候、次に私無異逗留仕候、乍憚御安意思召可被下候、然者当地も少々餘寒去候方に而、博覧会縦覧人日々夥敷事に御座候、熊次郎様にも先達ゟ下宿屋へ御入込に相成候、是も学校之御都合に而無拠次第に御座候、兼而申上候通り愈法律学御志に而御座候、私儀も当時独に相成候に付、此節本郷区駒込東片町百六拾二番地澤田駒次郎と申人之宅を借り引移申候、右者南様も同町に御座候へとも、東の端と西ノ端大分隔たり申候、乍併伝通院ゟ本郷程ハ隔り不申候、取り敢ず右報知申上置候也、

一　先便も申上通り暖気も相成候ハバ、何卒博覧会御見物に御登り、熊次郎様とも御打解け後来之処をも御相談被成候事肝要と奉存候、無左候間者、双方御隔意出来候間、甚不宜敷候欤に奉存候、何分春晩に御上京奉待入候、

一　南様も久振昨日御尋申候処、去ル十五日ゟ内務省御用にて参州へ御越し之由に而御留主に御座候、皆様至極御壮健に御座候、おしづ様にも貴君欤御母公様之御上京を餘程御待に御座候、是も別事に而ハ無御座、熊次郎様之御事を御相談被成度と之事に御座候、先者要用申上度如此御座候、頓首拝

十四年三月廿日

先日者博水様御上京にて御無難御着に御座候、私旅宿をも早速御来訪被下候、至而御壮剛之御事に御座候、此段おさ

ん様へ御申伝可被下候、尚々時候折角御自重可被成候

賀来惟弘様　　賀来飛霞

要用

（十八）

先だってハ細〳〵との御文ありかたく拝見仕候、時分から今以て餘寒さりかね申候へとも、御揃いよ〳〵御きけんよく入せられ候者んと、御めてたくそんしあげ候べく候、次にこゝもとみな〳〵かはりなくくらし候まゝ、御あんもし可被下候、扨而熊次郎様にも先日6下宿屋へ御ひきうつりに相なり候、是ハたゝいま御出の学からのつがふにて、そのちかくならてハ御ふじゆふゆへ、御うつりに御座候、此間も申上候通り、勝太郎様かあなた様か、はくらんくわい御見物に御のほりなされ、熊次郎様へゆる〳〵御あひのうへ、これさきの事とくと御そふだんなされ候事第一とぞんし上候べく候、

勝太郎様へもいさい申上おき候、

一　此ころハ油布院はくすい様御のぼりにて、うけたまはり候へば、あなた様にも久しく御ふくわいのよし、しかしもはや御こゝろよきとの御はなしにて、めでたくぞんし候べく候、御ふくわいと申事少しはうけたまはり候へとも、ちよっと御じびやうくらいにぞんしおり申候、御見まひのてがみもさし上もふさず、おそれ入申候、ひらに御ゆるし可被下候

一　およき事大きに〳〵御せわに相なりまし、御きのとくにぞんし候べく候、せんだってハ木裳の木下文大郎まいり候へども、いまだにもつとゞきもふさず、てがみもとゞきもふさす候、いつれそのうちにはとゝきもふすへく候、

一　ワたくし事も此せつ南様の同丁にまいり申候、いろ〳〵と御せわに相なり候事とぞんじ候べく候、先ハ用事のミあら〳〵めてたくかしく

（十四）三月廿日

尚々御病後せっかく御大事に御用心なさるべく候

一　およね様おさん様へよろしく御伝あけ可被下候

賀来　　賀来

おとふ様　　飛霞

まいる用事

（十九）

御電報難有奉存候、益御安泰奉恭賀候、次に小生無異消光

仕候、乍憚御安易思召可被下候、扨而およき縁談之儀、御申越之処、幸に此節者暢之も出京中にて、粲次郎とも篤と照会之上、先ヅ今度ハ相見合せ可然段、両人とも申出候間、小生も其意に任せ可申心得に御座候、程能ク仲人江御断り可被下候、即刻電信に而御返事可仕之処、其日者折悪敷小生大学校江出頭之留主、粲次郎も他へ下宿、暢之ハ日々夜分ナラデ帰り不申、旁以遅延に相成候、先者右御返事迄、早々如此に御座候、頓首

十四年五月十九日　賀来飛霞

賀来惟弘様

今便者御母堂様へ別紙呈上不仕候間、呉々宣敷御申上可被下候、博水様にも疾ク御無難御帰国と奉存候、

一　四月十四日之御手紙も疾ク到来仕候へども諸事に取紛れ御返事も不申上多罪之段々、平に御免可被下候、○東京にても農務云々ハ御紙上之如ク畑水練も多ク有之候へども、別に実地家と申者数名出京有之候、乍併小子自今農学ノ事と別途故ニ、実地家にも面会不仕実ニ残念奉存候、○熊次郎様も折々者小子僑居へ御出有之候、扨而此間ハ南様も福岡県へ御越に付、貴君御母子小倉迄御出張に而御対面之御都合と承り安心仕候、何れ熊次郎様一件御直談相成候事と奉存候、委細者南様御帰京之上篤と承り可申候、○草木種子類取集差上可申之処、免角聊タリとも品物ノ郵送ハ遅延に相成候と承り差出不申候、以来者心掛可申候、○博覧会ハ於今少シモ不衰日々見物ノ人盛なる事に御座候、○山田先生も至極流行之由、何ゟの事に奉存候、御序宣敷御伝へ可被下候、玉置君も当今ハ心中氷解之趣、是亦何ゟ之事に御座候、○山蔵も近来者都会風に而火事有之候由、佐田の龍吐水大に実効有之候由珍重ニ候、○暢之も彼地ノ牧馬ヲ牽キ博覧会に参候、春馬ハ代價八百円と申札付キ居、略陸軍と定約出来と欤承り申候、其次ハ青森県ノ六百円ニ御座候、是も売レ申候、其次ハ薩摩四百五拾円、是も宮内省へ御買入相成候、小荷駄馬モ百七十円位ノハ有之候、○養蠶ハ東京にも些と流行仕候、先年ハ桑ヲ掘リ捨テ候景況ノ処、今はシカラズ、○小子ハ日々長洲ノ鯛ノ事ノミ思ひ出し申候、コヽニモ鯛ハアレドモ金ガナクテ、ウメエモントイッチャーサッパリクエネーヨ　穴賢

（二十）

本月十六日御電報御返事十八日差立、其後御手紙御返事差出候、一々相達候儀と奉存候、徳門御揃、益御安泰奉拝賀候、当方南氏并に熊次郎様何れ益御清適、小生一行無異罷在候、乍憚御安意思召可被下候、扨およき縁談に付、毎々御通達難有奉存候、此節者幸に暢之も出京仕居候に付、同人と粲次郎とノ決に相従ひ申候、小子者最早老年之者に候間、若者ども へ評決爲仕候処、先ッ相見合セ、程能ク御断りと申出候、何卒其辺を以而先許へ可然御返答ノ程御依頼申上候、

一　博水様も先月廿四日御無難御帰国之由、珍重奉存候、

一　熊次郎様之縁十八日之処者、定而抑小倉南様と御熟談と奉存候、熊次郎様も愈学問御研究に御座候、御安心可被成候、

一　キウカリ樹者諸方とも昨年寒に枯レ候由に承り申候、

一　粲次郎も不相変勉強ハ仕候へとも、生徒一統年限延に相成欤之風聞有之、皆々頭を鳴らし居候、年限延に相成候上へ者、学校6学士ノ称号をもらひ、ドエライ者にナリ候と申事に御座候、乍去当今風聞中に御座候、延べば延候功能ハアルト申事に御座候、

一　四郎五郎円照寺の釣鐘を鋳造ノ由、同人も東京ノ逗留日少に而実に残念に御座候、鐘ノ供養に者人出も夥敷由、御手紙上ニて一層故郷ノ事思出し申候、

一　南様も官途之都合上々吉追々御立身と奉存候、色々大功業ノ事ども御聞と奉存候、貴君にも御家事御多忙御出京も無御座残念と奉存候へとも、今度南様と御物語に而御愉快と奉存候、時候折角御保護御家政向御勉強専一に奉存候、先ハおよき一條之御礼旁御答如何に御座候也、草々頓首

（十四）五月廿二日　　賀来飛霞拝

賀来惟弘様

几下

皆々様へ呉々宣敷被仰上可被下候

一　兼右衛門殿方御袋にも御病死之由、驚入申候、病症に付而者色々諸先生議論紛々行司立入候由、何にいたせ残念ノ事に御座候、小子6一才上之人にて御座候、此次ハ小子欤と心細相成申候、穴賢

（二十一）

細〳〵との御文ありかたく拝見いたし候べく候、ミな〳〵様いよ〳〵御きけんよく被成御座、御目出度そんし上候べく候、次にこゝもと熊次郎様・南様いつれも御かはりなくいらせられ候まゝ、御あんしん可被下候、扨而およきゑんだんの事に付、くはしくおほせ下され御しんもじのだん、あさからずありかたくぞんじまいらせ候、此せつハ暢之もおりよくまいり合せ候事故へ、三次郎一同に相談いたし候処、いづれも今度者先づ相見合せ、さきもとへほどよく御ことはり下され候やふと申出候、ワたくし事も、もはや老年に付このせつハ、ワかきものどもへそふだんいたし候ところ、いづれも今しばらくハみあわせ候と申候、勝太郎様の御手かずに者候へども、ほどよく御ことはり下され候やふと、ねかひ上候べく候、

一　熊次郎様御事ハ、此せつ南様福岡県へ御下りに付、勝太郎様・あなた様いづれ小倉まで御越しに相なり、いさいの御そうだんもこれあり候事と、おしづ様6うけたまはり申候、時節がらにて東京もことの外もの入りいたし候て、いつれもこまり入申候、熊次郎様バかり御もの入りと申ワけには御座なく候、

一　およき事、此うへなから御せわに相なり候へども、まん〳〵よろしく御たのみ申上候、此間よしおかたいみん参り、およき事しばらく中津へまいり候てはいかゞとも申居候、どちらになり候てもよろしく御たのみ申上候、先者とりあへずゑんだんの御返事申上たくあら〳〵めてたくかしく

（十四）五月廿三日　　賀来飛霞

賀来おとふ様

かへす〳〵も時候折角御用心専一にぞんし上候べく候、およね様・おさん様6御ことづげありかたくそんし上候べく候、御序よろしく御申上可被下候

おきち様御事も四月廿五日御不幸のよし、おとろき入り申候、御病気もしごく御なんしやうのよし、御同人もワたくしより一ツうへの人に御座候、これまてはたつしやなかたに御座候へとも、ぜひもなき事に御座候、御つひでに御くやミ御つたへ可被下候、かしく

飛霞

おとふ様

暢之・粲次郎ゟよろしく申上くれ候様申出候

（二十二）

久しく御ふさたおそれ入申候、六月四日の御返事ゟんにんながら申上候、これも熊次郎様御こんいんとりきはめ申上へくとそんし、ゟんいん相なり申候、なにも〳〵御ゆるし下さるへく候、熊次郎様にも箱根に御こしに相成候まゝ、御相談申御返事さし上候心得のところ、御同人様には去ル廿五日箱根ゟじきに御出立御帰国に相なり、もはや御きげんよく御帰宅、ミな〳〵様御ひさかたぶり御たいめんにて御よろこびとそんし候べく候、当年ハ東京もこれら病流行いたし、一日も安心ハできもふさず候、御帰国ハしごくよろしき御事と申おり候、なにも〳〵御同人様ゟ御きゝとりなさるへく候、御ゟんだんの御事も、何に欤おぼしめしに御叶なされざる様の事御座候ハバ、ミな〳〵様とくと御相談のうへ、あなた様おぼしめしの通り、はやく御とり合せよろしくぞんじ候べく候、御ゆいのうの事、おしづ様へおたづね申候へども、ゆいのうのところハいかゞにてもよろしとおほせられ候、只今のところにてハおしづ様御つれなされ度御やうすに御座候、さ

やう相なり候へば、その御ぞう用をあなた様よりおだしなされ候やう、なされたき御やうすに御座候、又、一郎平様も冬ころには九州へ御下りの御用も御ありなされやうの御はなしも御座候、そのせつ御つれ下りに相なり候ハバ、つがふよろしかるべくともおほせられ候、いづれにいたし候ても、これら病流行やみ候うへならでハ、何事もいたされもふさずとおふせられ候、私かんがへ候には、此せつの事ハ何にもあなた様・勝太郎様と御相談のうへ、何ほどと申切りを御付けなされ候ハいかゞ、さなく候てハ、らちあきもふさず候、幸に熊次郎様も御下りの事ゆへ、とくと御相談のうへにて、切りを御付けなされ候方よろしかるへくとそんし候べく候、めてたくかしく

（十四）八月二日　　賀来飛霞

賀来於桃様